

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2193200017
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社
事業所名	憩いの里 みずほ
訪問調査日	平成19年7月3日
評価確定日	平成19年8月2日
評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年7月7日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 2193200017
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社
事業所名	憩いの里 みずほ
所在地	岐阜県瑞穂市横屋562-1 (電話) 058-328-6729

評価機関名	旅人とたいようの会		
所在地	大垣市伝馬町10番地		
訪問調査日	平成19年7月3日(火)	評価確定日	平成19年8月2日

【情報提供票より】(19年 5 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 8 月 1 日
ユニット数	ユニット 18 人
職員数	14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 2階建て、1階～2階部分
------	--------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	120,000 円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	1,050円			

(4) 利用者の概要(5月 1 日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 89歳	最低	59歳	最高	103歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福田内科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の手作りのトマトとホーム内の季節感あふれる掲示物がむかえてくれた。ホームは職員の研修に力を入れ、拘束、利用者の権利擁護、個人情報保護、防災、感染症等、勉強会や日常的な場面で話し合い、気持ちを一つにして質の向上に取り組んでいる。一方、職員のチームワークの良さが、利用者の笑顔と自由で生き生きした行動と生活空間づくりに現われている。介護計画のアセスメントとモニタリングが十分なされているので、あらゆる場面で細やかな心配りによる利用者の起用が功を奏し、助け合いや支えあいが生み出されている。また、防災に関しては消防署の協力と指導が徹底されており、近隣の住民を巻き込んで避難訓練等、安全と安心の確保にも努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>開設平成18年8月1日 事業主体の変更に伴い外部評価は初めてである。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連科目:外部4)</p> <p>自己評価に関してはすべての職員の意見の反映があるので、自分たちのケアの振り返りができることから、その意義を十分理解している。また、具体的に、取り組み状況や改善事項に関しては忌憚のない意見の交換ができ、工夫しながら意欲的に取り組むことができています。</p>
	<p>重点項目②</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の開催で、第三者委員、民生委員、地域の方の意見を取り入れ、ホーム会議で検討している。災害時の訓練など地域住民と共に実施することができ、連携が図られてきている。また、広域連合、市社会福祉協議会等今まで以上に協力体制が取れている。</p>
重点項目③	<p>重点項目③</p> <p>家族の意見、苦情、不安への対応・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会はないが日頃から苦情や願いごとを言い易い雰囲気作りに努めている。また、苦情のシステムを説明し、ポスターなども掲示している。職員は2ユニットにいかなる場合でも対応できるようにお互い情報の共有を図るような体制をとっており、法人内の移動も最小限に抑えている。</p>
	<p>重点項目④</p> <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>広報は家族向けと地域住民向けと区別している。地域の方への広報には行事のお知らせや、ボランティアの依頼の記事なども掲載している。特に防災訓練において地域住民に参加していただくなどホームへの理解が深まっている。ホームとしてもこれから、サービスの向上に努めるとともに、介護者教室や介護相談などに地域との連携・交流に取り組んでいく必要性を感じている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念にある地域とのふれあいの中で、その人らしい生活が実践できるように、さまざまな機会を通じて地域との交流を図ることに努力している。近頃では、区長や民生委員、地域住民からホームに対しての理解を頂いていることが実感できるまでになった。	○	「笑顔を絶やさない、自己決定の尊重、地域の人とのふれあいを大切にする」という三つの理念を、職員一人ひとりがかみしめて実践していることが伝わってきた。今後も更に具体的に展開されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りやホーム会議での話し合いの中に、意識的に話題を出し、しっかり、自分のもので理解できるようにお互いが率直な意見を言い合い、日々の実践の中に活かされている。また、いつも振り返りしながら本来の理念に沿ったケアを再確認している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームのたよりは地域向けと家族向けを区別し、地域の方には行事のお誘いやボランティアのお願いなども掲載して回覧している。また、利用者が地域の一員として一緒に触れ合いながら、溝掃除にも参加し喜ばれている。	○	運営推進介護後のホーム会議での話し合いが充実しているため、地域住民との連携は以前よりも深まっている。今後も、利用者の自治会活動やいろいろな機会を通じて社会参加の機会が増すことにより、幅広い年齢層との交流が深まることを期待している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことの意義は非常に大きいと職員一人ひとりが感じている。また、今まで受身的であったことでも、具体的な改善に関して、職員同士の前向きな話し合いの中でいろいろ工夫し何とかやっという意欲をもっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に広域連合、区長、民生委員、家族の代表、ホーム長、管理者、介護支援専門員等が参加している。地域との交流を始め、施設への要望や意見などが出され、評価についての報告など、サービス向上に役立っている。特に、火災への取り組みに関しては年2回の火災訓練の協力にも繋がっている等効果が大きい。	○	運営推進会議での話し合いの結果は、ホーム会議や申し送りなどを利用しスタッフに確実に伝え実践されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	瑞穂市や広域連合の職員とのかかわりは以前からできており、よきアドバイザーとしてお互いが率直な意見交換や、協力体制はできている。また、行政からの紹介で相談を受けている。	○	今後更に地域の認知症介護の拠点として、行政との連携により地域住民の介護相談や介護技術の普及などの要になっていくことを期待している。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との連携の重要性を認識し、日頃から連絡を密にしている。連絡が取れない家族に対する工夫として、最低月1回は電話を入れたり、写真を送付したりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と職員との人間関係は非常に良好である。家族会はないが日頃から苦情や願いごとなど、言いやすい雰囲気心がけている。また、苦情の第三者機関はポスターなどで掲示するなど工夫が見られる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット間において、いつでも対応できるように情報の共有を図っている。法人内での移動はできるだけ最小限に心がけている。職員の退職は病気等の原因であり、職員の離職率は非常に低く、比較的長期間働いているが、離職の際は時期や引継ぎなど最善の努力を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に関してのシステムは非常にしっかりしている。時々、外部講師を招いたりしながら、必要な情報の確保に取り組んでいる。特に、新人研修には5つの段階が設けられ、グループホームの職員としての最低限の理論と技術の確保ができ、土台が作られて交流し研修の機会を確保している。	○	外部研修の機会を積極的に活かしていくことにより、更に職員一人ひとりの資質の向上に努力されることを期待したい。また委員会を導入されている良さを活かし、それぞれの分野で切磋琢磨してホーム全体のサービスを向上をめざしていくことを期待している。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の老人保健施設との交流があり、持ち回り制の勉強会や相互訪問を実践しサービスの向上を目指している。外部からの救急法講習の場合は広く呼びかけて行っている。	○	研修の体制はしっかりできている。今後も外部との交流をすることの意義を確認し、お互いのサービスの質を高めるという意味においても同業者との交流を視野に入れることを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	通所体験のシステムを利用して、グループホームの生活の理解を深めることによって、心理的な抵抗感がないようにしている。利用者や家族、ホーム側双方にとって時間をかけて納得した上での利用のメリットは大きいと感じている。	○	システムの継続とともに、内容においていろいろな工夫をすることによって、他の利用者や、職員との関係作りを深めるとともに、よき観察の機会となることを今後も期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	まさに一つの大きな家族のような雰囲気が伝わってくる。利用者同士の支えあい、職員と利用者は子供か孫か、近所の人かのような存在であると同時に専門職としての自覚を持ちながら接している。また、職員同士も利用者を挟んでお互いが学んでいって、成長しているという関係がみられる。	○	業務中心ではなく利用者中心の生活のペースができており寄り添う介護を展開ができています。今後も利用者から生活の知恵を学ぶ姿勢をもちながら、利用者の生きがいを沢山作られることを期待しています。
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別性を非常に大切にケアの展開をしている。一人ひとりの尊厳と利用者本位というベースがしっかりできている。職員は一人ひとりをよく把握し、上手に会話を交え思いを引き出している。利用者は自分の役割と自分の生活のペースを保ちつつ、気軽な温かい雰囲気の中で、生き生きと生きがいを持って生活している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートの見直しとともに個別記録・業務日誌に工夫が見られ、職員間の共通の理解が図られている。カンファレンスや、日常のケアの場面でも全職員が意見交換し、必要に応じて適宜見直しをしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを常に怠らず、利用者や家族の状態や声に耳を傾けて、随時計画の見直しを行っている、柔軟に対応することによってケアプランが生きたものになっていることを実感している。	○	モニタリングの基礎になる事柄は日々の記録ともいえるので、記録の内容を工夫し、詳細に状況や状態が読み取れるような工夫が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じ協力を得ながら、通院や買い物、外出等柔軟に対応している。	○	地域に根ざすという意味合いで、今後は介護教室はじめ認知症ケア等の介護相談などの取り組みを積極的に実施する意向を持っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医を殆どの方が利用されているが、利用者がかかりつけ医を希望する場合は、家族と協力し通院介助を行っている。協力医は非常に協力的で熱心であるので緊急時の対応もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに関しては医療体制指針が作成され、契約時に意志の確認をしている。家族・利用者の意思を第一義的にとらえ、常に話し合いの場を設け確認書を作成している。医師、家族、ホームとお互いが連携をとってターミナルケアに取り組んでおり、家族も泊まり込み最後の看取りをすることも可能である。	○	今後もだれもが住み慣れたなじみの関係の中で最後の時を迎えたいという願いを、三者間の話し合いの中で実現できる体制を維持されることを期待している。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法に関しては、ホーム会議や研修で学び、職員がよく理解している。職員はプライバシーを侵害しないように、記録物にも配慮している。特に言葉遣いはお互いに注意しあうという関係作りができています。	○	プライバシーに関しては本人の気持ちがあるまま表れる場面でもあるとの信念があり、常に尊厳には気をつけている。職員同士はお互いの信頼関係が強く、気になる点は注意しあう関係が常にできている。この良好なチームワークを今後も続けられることを期待している。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制は一切せず、とにかく利用者の生活のリズムで、起床、洗面、食事、入浴、口腔ケア、入眠等、一人ひとりのペースで自由に過ごしている。買い物や散歩など利用者の思いを大切に、状態に合わせて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は利用者の栽培した野菜が使用されることでまた話が一つのご馳走にもなっており、会話は家庭的な雰囲気である。最高齢者を利用者の方が何かとお世話しており、職員は温かく見守っている。準備から後片付けまで利用者のペースにあわせて一緒に行動し、利用者同士も助け合ってすすめているが、何回も職員のねぎ		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯や入浴希望日等を把握し、主治医の意見を聞きながら支援している。夜間入浴は現在希望者はいない。たとえ、医師と常に連携し、希望があればできるだけシャワーや清拭ではなく湯船につかってもらうようにしていることから、利用者や家族からも喜ばれている。	○	利用者や家族の意見を十分取り入れた入浴を展開している。今後も利用者の状態を考えながら、その思いを大切にしたい入浴の提供を期待している。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は一人ひとりが役割を持って暮らすことができるように得意な分野を把握している。利用者はお互いに相手のことを良く知っていることから支えあい、助け合って生活している姿がほほえましい。貼り絵、詩吟、書道、カラオケ、掃除や洗濯、家から持参した鍬や麦わら帽子で野菜作りをする場合でも、それぞれのこだわりの世界を大切に支援を展開している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外出、食材や自分の必要なものの買い物などは日常的に実践できている。特に、訪問の少ない利用者には、1対1で喫茶店やレストランなどへの外出も行っている。一方車椅子使用の方も外出を楽しみにしているため、できるだけ全員参加し、皆で季節を味わうことを重視している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	拘束に関する研修、利用者の権利擁護、プライバシーの保護とは具体的にどうということなのか勉強会や日常的な場面で話し合い、気持ちを一つにしてケアの実践に心がけている。帰宅願望の強い方にはバス停まで付き添うなど、安全面に配慮し、見守りや声がけの工夫をしながら閉じ込めない介護を当たり前として取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力と指導が徹底しており、マニュアルはもちろん、年2回の避難訓練を通して細かく指導を受けている。避難訓練も近隣の住民を巻き込んで行っており、救急法の講習への参加等地域住民の協力体制もできつつある。また、地震に備えて寝る位置を変えるなど災害に対する意識が高い。	○	運営推進会議の効果もあり、自治会を巻き込んでの災害時の体制がとられつつあることに期待している。そのためには日頃からホームの利用者とのなじみの関係作りが必要である。現在、スプリンクラーの設置なども将来的に考慮するという意向があり、実現を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に毎日摂取量を記録し、一人ひとりの健康状態や好みも把握しながら、栄養バランスに気をつけている。きざみの場合でもできるだけ見た目食べる工夫や食欲増進を考えている。また、睡眠の周期が長い利用者には、医師との連携により本人の生活リズムに合わせた食事の提供をしている。	○	行事食・郷土食などを積極的に取り入れて提供しているので毎食喜ばれている。何よりも食事は野菜作りから始まり、一緒に買い物をし、皆で手作りを楽しみ、利用者の生きがいと利用者一人ひとりを大切にしている姿勢を今後も継続されることを期待している。
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は利用者の作品と協同作品で季節感溢れる掲示物で彩られている。飾りつけに限らず、野菜づくりも職員と利用者がともに楽しんでいる。居間には大きなソファが置かれ、おしゃべりやカラオケなど思い思いに過ごしている光景が見られる。	○	随所に見られる職員の働きかけによる作品や生活空間の工夫は、職員の細やかな心配りが感じられる。今後も利用者とともに生活しているという姿勢を続けられることを大いに期待している。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で、写真、日用品や手作りの飾り物、コタツなど個性的な生活スタイルに合わせ、利用者にとって住み心地の良い環境が整えられ、安心して過ごせるような配慮が感じられる。		